

一般社団法人

Japanese Society for
Information and Systems in Education

教育システム情報学会 ニュース・レター No.257



一般社団法人
教育システム情報学会

発行日 2026年4月14日

発行所

一般社団法人

教育システム情報学会

発行者 小松川 浩

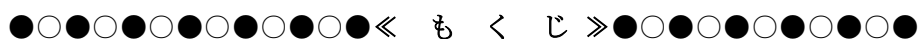
〒162-0801

東京都新宿区山吹町358番地5

アカデミーセンター

URL <https://www.jsise.org>

E-MAIL secretariat@jsise.org



第51回 全国大会のご案内・・・・・・・・・・2	学生研究発表会開催／優秀賞報告・・22
2027年度発刊 特集論文募集・・・・・・・・5	研究会報告年間購読案内・・・・・・・・25
「博士論文紹介」の原稿募集・・・・・・・・7	広報からのお知らせ・・・・・・・・26
合同英文誌 ITEL 論文募集・・・・・・・・8	他団体 協賛・後援イベントのお知らせ・・27
ラーニングイノベーショングランプリ (LIGP) 2026 募集・・・・・・・・10	国際会議案内・・・・・・・・27
科研費申請支援制度(春期)のご案内・・・・11	会費改定のお知らせ・・・・・・・・28
2026年度からの研究会について・・・・13	会費納入のお願い・・・・・・・・29
研究会開催年間スケジュール・・・・・・・・15	事務局より・・・・・・・・31
第5回研究会開催報告・・・・・・・・16	会員専用ページの案内, 入会のご案内, 新入会員のご紹介
第6回・特集論文研究会開催報告・・・・18	





第 51 回 JSiSE 全国大会のご案内

担当者： 全国大会委員会

テーマ：新時代の教育システム情報学

<https://taikai2026.jsise.org/>

■ 開催日時： 2026 年 9 月 12 日(土) ～ 9 月 14 日(月)

■ 会 場： 徳島大学 常三島キャンパス

*対面開催（一部オンライン発表セッションあり）

■ 主 催： 一般社団法人教育システム情報学会

■ 全国大会の実施方法について

第 51 回全国大会は，基本対面形式にて実施いたします（一部，オンライン発表セッションも設けます）。

■ 大会日程（予定）

9 月 12 日（土）	
午前	プレカンファレンス
午後	オープニング(開催校挨拶)，特別講演， 一般・企画セッション，インタラクティブセッション
9 月 13 日（日）	
午前	一般・企画セッション
午後	各種表彰，メインイベント， インタラクティブセッション・学生研究特別セッション，懇親会
9 月 14 日（月）	
午前	一般・企画セッション
午後	クロージング，現地企画シンポジウム

(*) 大会日程は変更される可能性があります。

■ 交通アクセスについて

https://www.tokushima-u.ac.jp/access/shinkura_josanjima.html

<徳島駅から徳島大学まで>

- 徳島バス 徳島駅前から「中央循環線（左回り）」・「鍛冶屋原線（住吉経由）」・「島田石橋線」・「鳴門線」・「川内循環線（左回り）」・「中央市場線」のいずれかに乗車 ⇒ 「助任橋・徳島大学前」下車 ⇒ 徒歩 5 分
- 徳島市営バス 徳島駅前から「東部循環線（右回り）」に乗車 ⇒ 「助任橋・徳島大学前」下車 ⇒ 徒歩 5 分

■ 大会までのスケジュール

原稿修正締切の後に、参加申込が開始されます。発表者には、参加申込の開始時にメールでご連絡いたします。本年も講演申込と投稿締切が同日となっております。また、投稿締切後、原稿修正期間が設けられています。

- 2026 年 4 月 23 日(木) 講演申込・投稿開始
- 2026 年 6 月 10 日(水) 講演申込・投稿締切
- 2026 年 6 月 17 日(水) 原稿修正締切
- 2026 年 6 月 18 日(木) 参加申込開始
- 2026 年 7 月 16 日(木) [発表者] 参加申込締切
- 2026 年 8 月 11 日(火) [発表者以外] 参加申込締切(郵便振替・コンビニ決済・クレジットカード)
- 2026 年 8 月 18 日(火) 参加費納入締切(郵便振替・コンビニ決済)
- 2026 年 9 月 14 日(月) [発表者以外] 参加申込締切(クレジットカード)

■ プログラム

プログラムは変更される可能性があります。最新の状況は大会 Web サイトに掲載いたします。

- 企画セッション
 1. 新時代の教育システム情報学
 2. 医学・看護教育を支える教育設計～医療×教育×情報の連携～
 3. インスティテューショナル・リサーチ (IR) におけるデータ駆動型意思決定の進化：教学マネジメントとデータサイエンスの融合
 4. SIG-DEPR：教育実践研究のデザインと展開：理論・実践・省察から学ぶ
 5. SIG-DTCI：地域 DX による探究学習の可能性
 6. SIG-ERS：防災・安全教育システム情報学ことはじめ
 7. SIG-PS：教育における心理的安全性の必要性和課題
 8. SIG-SLAM：認知スキーマのモデリングと学習支援システム
 9. SIG-RBL：再構成学習の理論と実践

■ 講演論文集について

第 45 回大会より CD-ROM での配布を廃止し、Web による配布のみとしております。Web 版の講演論文集は、2026 年 8 月 31 日(月)に大会参加者のみに公開され、2027 年 3 月 15 日(月)に一般公開されます。

■ 企業展示・広告の募集

企業展示・広告を募集いたします。お申し込み先など、詳細は大会 Web サイトでお知らせいたします。

■ 協賛金のお願い

大会運営のための諸費用として使用させていただく協賛金を募集しております。ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。詳細は大会 Web サイトでお知らせいたします。

■ 大会事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
一般社団法人 教育システム情報学会 全国大会委員会
E-mail : jsise-desk@bunken.co.jp



2027 年度発刊 特集論文募集

担当者： 学会誌編集委員会委員長 後藤田 中（香川大学）

Vol. 44, No. 2 学会誌 特集「これからの学習を生み出す学習デザイン・支援システム・分析」

論文投稿締切：2026年6月1日(月) (予定)

2027年4月1日 発行 (予定)

古典的な学習の場である教室での対面一斉授業から離れた「場所・時間によらない学び」や、問題解決スキルや批判的思考スキルの涵養といった「知識伝達に留まらない学び」など、多様な学習機会の提供に目掛けた教育・学習支援システムの開発が進んでいます。それらは、遠隔ライブ授業、オンデマンド動画授業、モバイルラーニング、eラーニングなどをベースとしつつ、インストラクショナルデザインに基づいた設計や、ラーニングアナリティクス、AIを活用したパーソナライズなど多種多様な工夫によって成り立っています。

これらをふまえ、本特集論文では、これからの学習を生み出す多種多様な工夫に視点を当て、さまざまな学習機会を提供する学習支援システム、それらのシステム設計、効果的な活用方法、そのシステムの裏にある学習デザイン、システム利用者の学習分析などについての論文を幅広く募集します。

1. 対象分野

古典的な学習の場から離れた学びを提供することに関連する学習システムの設計、学習システムの効果的な活用方法、学習システム利用者の学習分析、その他様々な観点において、これからの学習を生み出すことにつながる論文を幅広く募集します。

2. 論文種別

すべての種別（一般論文、実践論文、ショートノート、実践速報）の論文を募集いたします。なお、査読を通して、異なる種別での採録となる場合があります。また、内容により一般号掲載論文へ変更する場合があります。

3. 投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます。詳細は教育システム情報学会のWebサイト上の「学会誌投稿のご案内」でご確認ください。投稿に際しては「特集」であることを明示していただきます。また、特集論文研究会（2026年3月中旬開催済）で発表を行った方は、特集論文研究会での発表題目と発表番号も明示いただく予定としております。

4. スケジュール

論文投稿締切： 2026年6月1日(月) 【予定】

採録通知予定： 2026年12月初旬まで【予定】

学会誌 掲載： 学会誌 Vol. 44, No. 2, 2027年4月1日発行【予定】

5. 特集論文編集委員会

委員長： 後藤田 中（香川大学）

副委員長： 高木 正則（電気通信大学）

筆頭幹事： 山元 翔（近畿大学）

幹事： 白澤 秀剛（東海大学），近藤 伸彦（東京都立大学），
林 佑樹（大阪公立大学），宮澤 芳光（独立行政法人大学入試センター）

幹事補佐： 油谷 知岐（大阪公立大学），吉原 和明（近畿大学）

委員： 学会誌編集委員

6. 問い合わせ

全 般： 白澤 秀剛（東海大学） E-mail: sirasawa@tokai.ac.jp



「博士論文紹介」の原稿募集について

担当者： 学会誌編集委員会委員長 後藤田 中（香川大学）

学会誌のコミュニティ・プラザ「博士論文紹介」では、博士号取得者による研究テーマを広く紹介することで、分野内の博士号取得者の研究動向を読者の皆様にお伝えしています。また、複数の研究者の紹介を一同に掲載することで、博士号取得者同士の相互理解や交流のきっかけにもなることを目指しています。本記事は毎年7月1日発行のNo.3に掲載され、投稿の募集は年度末から新年度初め（3～4月頃）にかけて、学会誌やニュース・レターを通じてご案内しています。

年1回に集約したことにより、寄稿依頼を年度末前後の3～4月頃とし、本誌や学会のニュース・レターなどを通じて、募集いたします。お近くに博士号取得者や、今後学会誌掲載時に博士号取得予定者がいらっしゃるいましたら、ご本人または、指導教員の立場によらず、以下の教育システム情報学会誌編集委員会担当委員のメールアドレスまで、お気軽に情報提供いただけますと幸いです。

2026年7月1日発行予定となります学会誌 Vol. 43, No. 3 につきましては、【2026年4月17日(金)】を原稿締切の予定とし、募集いたします。

執筆に際しては、博士論文紹介原稿用の執筆要領&原稿テンプレートをご利用ください。原稿および必要事項の提出に関してはGoogleフォームを用いて受け付けます。下記URLよりご利用ください。

スケジュール

原稿締切： 2026年4月17日(金)（予定）
学会誌掲載： 学会誌Vol. 43, No. 3, 2026年7月1日発行（予定）

執筆要領および原稿提出

執筆要領&原稿テンプレート：
https://docs.google.com/uc?export=download&id=1ncrIREcS_hf_2c.jlcPhuI0GZV1ag47aF
原稿提出（Googleフォーム）：
<https://forms.gle/2qpeXo5vAbFYjGsk6>

問い合わせ等

問い合わせ先： 教育システム情報学会誌編集委員会 担当委員 宮澤 芳光（大学入試センター）
E-mail: miyazawa@rd.dnc.ac.jp



Information and Technology in Education and Learning (ITEL) 論文募集 [<https://www.j-itel.org>]

日本教育工学会 (JSET) との合同英文誌 ITEL (Information and Technology in Education and Learning, <https://www.j-itel.org>) への掲載原稿を募集しています。この ITEL では、我が国における教育工学・教育システム情報学の国際的な発信力を強化するとともに、国際的な共同研究・研究交流のプラットフォームになることを目指しています。研究対象は、教育システム情報に関連した領域全般はもちろん、様々な教授学習場面のための方法・技術に関する基礎研究・開発研究・実践研究等も含まれます。ITEL は、J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルです (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/itel/list/-char/ja>)。投稿後、原則、7 か月以内に 2 回の査読が終了するように配慮しています。短期間で、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて発信するために活用していただければ幸いです。学位取得を目指されている方や留学生のみなさんからのご投稿もお待ちしております。

- 論文種別： 一般論文 (Regular Paper, 基本 8 ページ) ,
実践論文 (Practice Paper, 基本 8 ページ) ,
システム開発論文 (Development Paper, 基本 8 ページ) ,
ショート論文 (Short Paper, 基本 4 ページで最長 6 ページまで)
<これまでのショートノート (Short Note) と実践速報 (Report on Practice) を含みます>
- 投稿締切：1 年中投稿を受け付けています。
- 投稿要件：
 - 論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
 - 投稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員あるいは JSET 会員である場合には掲載料に会員の価格が適用されます。投稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、掲載料に会員価格が適用されます。
- 原稿執筆要領：ITEL Web サイトに、執筆要領 (Author Guidelines) 等がアップされています。
- 投稿方法：< [ITEL 電子投稿システム] https://iap-jp.org/j-itel/journal_e/ >
 - ITEL Web サイト上から、電子投稿システムにログインして投稿を行って下さい。
 - 初めて電子投稿システムを利用する場合は、まず利用者用 ID の発行手続きを行って下さい。
 - 投稿論文は、論文執筆用テンプレートファイルを用いて PDF ファイルに出力して提出して下さい。
 - 投稿論文は、投稿前にできるだけ英文校正 (Proofreading) を受け、証明書提出を推奨しています。
- 査読方法：
 - 投稿論文の査読は、JSiSE 英文誌と同様に、シングルブラインド制で行われます。
 - 査読者は 2 名で、査読回数は 2 回となります (著者照会は 1 回のみ)。
 - 評価項目は、Originality (新規性)、Usefulness (有用性)、Reliability (信頼性)、Presentation (明瞭性) の 4 項目となり、JSiSE 英文誌と異なり、査読中に投稿論文の種別変更はありません。
 - 投稿者の希望に基づき、JSiSE 英文誌と同様、日本語で査読コメントを受けることもできます。

Editorial	Preface to Volume 5: Practices, Issues, and the Future of Generative AI in Education and Learning H. Oura and H. Kunichika
Invited Paper	Generative AI in Foreign Language Learning and Teaching: A Summary and Insights from Our Empirical Investigations A. Mizumoto
	Ethical, Legal and Social Issues in the Educational Use of Generative AI A. Kishimoto
	Transforming Education with Generative AI: Designing for the Post-Prompting Era L. Wong
Regular Paper	Usage of Junior High School English Digital Textbooks Based on Operation Logs and Its Influence on Learning Performances Y. Miyanishi, T. Nagahama, S. Nakagawa, and T. Horita
Practice Paper	Investigating the Use of a Web-based Application on Geometric Proof Understanding: A Study of Individual and Small-Group Learning in Junior High School S. Hamada, X. Geng, L. Chen, and M. Yamada
Short Paper	A Consideration of Potential Utilization of Virtual Student Avatars in Discussion Process in Small Class of Junior High School K. Kobayashi, T. Mukai, T. Yasunaga, and S. Shiota
Translation	Clarification of Eye-Tracking Patterns and Related Practical Thinking Styles of Teachers in the Classroom: A Case Study Using a Subjective Camera K. Himeno
	Relationship Between Changes in Classroom Practice and Beliefs about Teaching of Novice Faculty: A Longitudinal Study for Participants in a PFF Program Designed to Support the Introduction of Active Learning Y. Kozai, M. Taguchi

注：Translation は、日本教育工学会論文誌に掲載された論文の一部を英訳したものです。



「ラーニングイノベーションングランプリ 2026」募集

教育システム情報学会 産学連携委員会 委員長 米谷 雄介

教育システム情報学会（JSiSE）が2016年度より共催している産学連携イベント「ラーニングイノベーションングランプリ 2026」（主催：一般社団法人ラーニングイノベーションコンソシアム）において、今年度も研究成果の募集が行われます。

本グランプリは今回で10回目を数え、学生および若手研究者による学習・教育環境に関する研究成果を対象とし、論文評価とは異なる観点から、産業界の評価やフィードバックを得られる投稿・発表の機会です。教育実践や教授法を含め、テクノロジーに限らない幅広いテーマが対象となります。

【主な対象分野（例）】

AR/VR/AI, ラーニングアナリティクス, 教育データ活用,
学習支援システム, 教育実践・教授法, メタ認知, SRL/SDL など

応募対象は、学生および若手研究者（一次審査締切時点で40歳未満）で、学生と若手研究者を含むチーム、または若手研究者単独での応募が可能です。

公式Webサイトのオープンおよび応募受付開始は4月上旬予定です。
詳細は公式サイトをご確認ください。

【公式サイト】

<https://ligp.gingerapp.co.jp/>

※過去の受賞研究はアーカイブとして公開されています。



科研費申請支援制度（2026 年度春期）のご案内

担当者： JSiSE 人材育成委員会

教育システム情報学会では、次代を担う若手研究者の自立、研究活動の活性化を積極的に支援することを主旨として、科研費申請支援制度を実施しています。本学会の理事等を中心に、当該分野の科研費審査や獲得経験を有する複数のシニア研究者（匿名）が、提出された申請書に対して、主張点や論旨の明確化、焦点化など、審査員に上手に伝えアピールする視点から、採択に向けたコメントを書面で提供するものです。申請書評価の多様な見方に触れて頂くためにも、学会としてまとめることはせずコメントータからのコメントをそのまま提供します。これらを参考材料として申請者ご自身の判断の下で取捨選択しての申請書のブラッシュアップに役立てて頂く主旨のものです。学会およびコメント提供者は申請内容について守秘義務を負うものとします。なお学会およびコメント提供者は採択に関する責任を負うことはできませんので、予めご承知おきください。

本制度は若手研究・基盤研究（C）および研究活動スタート支援を支援対象とします。主として以下の分野を対象にしますが、JSiSE が学際的な領域を対象にしていることから、他の分野でもできるだけ柔軟にお受けしたいと考えていますので、下記問い合わせ先までご相談ください。

・春期支援種目：

- ・研究活動スタート支援

（若手研究・基盤研究(C)は夏期の支援を予定しています。）

・分野：

- ・「大区分 A」「中区分 9：教育学およびその関連分野」
 - ・ 09070 教育工学関連
 - ・ 09080 科学教育関連
- ・「大区分 J」「中区分 62：応用情報学およびその関連分野」
 - ・ 62030 学習支援システム関連

・申請者は学会員であることが必要です。

スケジュールは以下の通りです。ご所属機関により提出時期が異なることを踏まえ、提出期間に幅を持たせています。

○エントリー

研究活動スタート支援：3月31日より

下記提出先まで電子メールにて、 代表者氏名(所属)・タイトル・応募種目・分野(大区分, 小区分)をお知らせください.

サブジェクトは「JSiSE 科研費申請支援」を含む文字列でお願いします.

※エントリーがなくても申請は随時受付いたしますが, 事前にエントリー頂ければメンテーターに書類を迅速にお送りできますので, 結果の返送も早くなります.

○申請書提出

研究活動スタート支援: 3月31日 ~ 申請者所属機関の申請書類締め切りの2週間前まで

申請書のファイル (MS-Word または PDF 形式) を下記提出先までお送りください (予算明細などの詳細まで埋めていただく必要はありませんが, よりよいコメントを提供するために, ある程度内容が固まってからご提出いただくのが望ましいと思われます). 提出いただき次第, コメントーターに申請書を送付します.

○コメントのお返し

【各メンテーターから提出があり次第, 随時コメントをお返します.】

事前エントリーがあった場合申請書提出から1週間前後, ない場合10日前後の返信を予定しておりますが, 事情により遅れる可能性もございますので余裕をもってお申込みください.

エントリー, 申請書提出およびお問い合わせ先

JSiSE 人材育成委員会 (jsise-y-support@googlegroups.com)



2026 年度からの研究会について

研究会委員会

第 50 回（2025 年度）全国大会でお知らせしたとおり、より魅力のある研究会の実現に向けて、2026 年度から研究会の実施体制を変更します。ご自身の研究発表や交流の場として、今後とも研究会をぜひご活用ください。

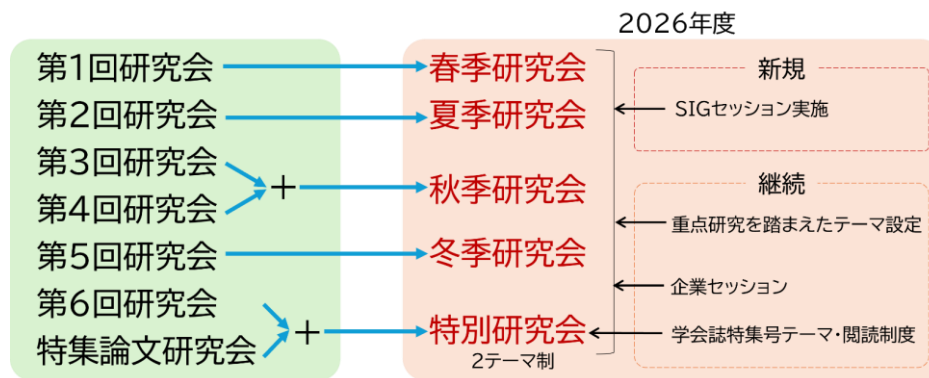
1. 開催回数と区分の変更

- 年間 5 回開催に変更します（従来は年間 7 回）
- 区分を春季・夏季・秋季・冬季・特別の 5 つに再編します
 - 春季研究会（5 月 23 日（土）、早稲田大学 早稲田キャンパス）
 - 夏季研究会（7 月 5 日（日）、札幌市社会福祉センター）
 - 秋季研究会（10 月 24 日（土）、しいのき迎賓館（予定））
 - 冬季研究会（2027 年 1 月開催（予定）、東北大学）
 - 特別研究会（2027 年 3 月開催（予定））
- 従来第 3 回と第 4 回研究会を統合し、秋季大会とします。全国大会の時期を踏まえ、研究発表・聴講のスケジュールを調整しやすくします。
- 従来第 6 回研究会と特集論文研究会を統合し、特別研究会とします。特別研究会では 2 つのテーマを設け、そのうち 1 つは従来の特集論文研究会と同様に学会誌特集号のテーマとし、閲読制度も継続します。投稿・参加申込システムを統合することで、投稿・参加の利便性を高めます。

2. 他委員会との連携強化

- 学会誌編集委員会：学会誌特集号テーマ・閲読制度の継続（論文誌掲載へのステップアップの支援）
- 重点研究推進委員会：重点研究を踏まえたテーマ設定の継続（時代に即した研究の把握・理解の促進）
- 産学連携委員会：企業セッションの継続（企業との出会い・コラボレーションの創出）
- 研究活性化委員会：SIG セッションの実施（研究発表機会の増加、新しい研究領域の把握）

年間の開催回数は 5 回となりますが、他委員会との連携強化によって、研究会の内容を充実させ、参加者体験の向上に努めます。教育システム情報学の広さと深さをより実感できる研究会を目指します。



3. 研究会報告購入費の改定（非会員のみ）

改定前		改定後	
会員種別	研究会報告購入費	会員種別	研究会報告購入費
会員 (すべての種別)	1,000 円	会員 (すべての種別)	1,000 円
非会員（一般）	1,000 円	非会員（一般）	2,000 円
非会員（学生）	1,000 円	非会員（学生）	1,500 円

※年間購読料は 4,000 円のまま変更ありません。

近年、会場費や人件費の高騰により、研究会運営に必要な費用が増加しております。今後も魅力ある研究会の運営に努めてまいりますので、本改定につきましてご理解を賜りますようお願い申し上げます。



2026 年度研究会開催スケジュール

担当者：研究会委員会

研究会は 2026 年度から 5 回開催となります。年間スケジュールは下記の通りです。
詳細は、学会 Web ページ (https://www.jsise.org/society_research/) をご覧ください。

回	テーマ	開催日	会場	発表申込締切	原稿締切
春季 研究会	DX・AI 時代の学習環境/ ヘルスケア分野の DX 人材育成/ SIG セッション/一般	5 月 23 日 (土)	早稲田大学 早稲田キャンパス	4 月 10 日 (金)	4 月 20 日 (月)
夏季 研究会	ICT を活用した学習支援と教育の 質保証/一般	7 月 5 日 (日)	札幌市社会福祉 センター (札幌市中央区)	5 月 25 日 (月)	6 月 4 日 (木)
秋季 研究会	AI 時代における学習支援システ ムと実践/一般	10 月 24 日 (土)	しいのき迎賓館 (予定)	9 月 18 日 (金)	9 月 28 日 (月)
冬季 研究会	創造性を育む教育システム/一般	2027 年 1 月予定	東北大学		
特別 研究会	検討中	2027 年 3 月予定	検討中		

研究会全般に関するお問い合わせは、研究会委員会幹事団 (kenkyuu-sec-ml@jsise.org) までお願いいたします。



第 5 回研究会開催報告

担当者： 高木正則（電気通信大学），三石大（東北大学），鷹野孝典（神奈川工科大学），
佐々木整（拓殖大学），光原弘幸（徳島大学）

- テーマ：教育 DX と実世界指向学習環境／一般
- 開催日：2026 年 1 月 10 日（土）
- 開催会場：「とくぎんとモニプラザ」会議室（徳島駅前）
- 概要：

2025 年度第 5 回研究会は，2026 年 1 月 10 日（土）に徳島駅前の「とくぎんとモニプラザ」にて開催されました。研究会テーマは，昨年度に引き続き「教育 DX と実世界指向学習環境／一般」とし，対面形式のみの開催ながら，全国から 40 名近い方々にご参加いただきました。

本研究会では，VR や AI を活用した教育 DX の推進，および災害訓練や語学学習といった実世界の課題に即した学習環境の構築に関する最新の成果が共有されました。また，ICT 支援員の制度的課題やロボットを用いたインタラクションなど，技術と社会が交差する領域における情報システムの開発についても活発な議論が行われました。さらに，通常セッションに加え，賛助会員 2 社によるセッションを設けられ，実務の視点から貴重な情報提供をいただきました。

最後になりますが，発表者，参加者の皆様，賛助会員の方々，そして審査委員の皆様をはじめ，多くの関係者のご協力により円滑に研究会を運営できましたことを，担当委員一同より厚く御礼申し上げます。

■ 発表タイトル一覧：

- 市街地開催イベントにおける災害時避難誘導を訓練するための VR システム-徳島市阿波踊りを対象として
- 災害時院内籠城の対応訓練のための 3D シミュレーションシステムの設計
- 高等学校「情報 I」のモデル化とシミュレーション分野における生成 AI を活用した作問学習支援システムの開発と評価
- 個人業績評価型成果主義における協働体制構築のためのゲーム型教材開発の試み
- 英語音読練習のための日本語発音を考慮した音読採点手法
- L-VEIGe: 誤答画像生成による英語語彙学習支援システム -定量評価モデル改善に向けた自己評価機構の導入-
- 類義語の使用可能状況の類似性に着目した単語の例文の意味的分類支援システム
- CDE を活用した BIM 情報マネジメント教育の提案
- ICT 支援員の待遇と制度的課題に関する質的内容分析 -GIGA 前後の自由記述比較から-
- 大規模レシピデータからの判断軸生成に基づく対話型レシピ探索システムの構築
- 概念マップを用いた研究支援のための研究シナリオ抽出・可視化システム
- 段階的な卒業論文セルフチェックを可能とする推敲支援 AI の設計と構築

- 研究開発戦略論における NotebookLM 導入に関するプロフィール分析
- 物理解習における主観的な理解状況と正誤情報を利用した要復習知識可視化システムの開発と評価
- 講義ロボットロールの顕在化と受講に対する効果
- プレゼンタの発表態度とスライド間の関係に基づく聴講者ロボットの理解モデル構築手法





2025 年度 第 6 回研究会・特集論文研究会 開催報告

担当者： 浅羽修丈（北九州市立大学），尾崎拓郎（大阪教育大学），鷹岡亮（山口大学），
永田奈央美（静岡産業大学），西端律子（畿央大学），長谷川理（武蔵野大学），
林雄介（広島大学），三井一希（山梨大学），森祥寛（金沢大学）山本樹（文部科学省）
後藤田中（香川大学），白澤秀剛（東海大学）

- テーマ： 生成 AI と情報活用能力の育成（第 6 回研究会テーマ）
これからの学習を生み出す学習デザイン・支援システム・分析（特集論文研究会テーマ）
- 開催日： 2026 年 3 月 15 日（日），16 日（月）
- 会場： 静岡産業大学 藤枝駅前キャンパス（Bivi キャン）
- 発表件数： 第 6 回研究会テーマ 15 件，特集論文研究会テーマ 18 件（閲読希望 9 件），一般 29 件，
合計 62 件
- 参加者数： 113 名

■ 概要：

今年度も昨年度に引き続き，第 6 回研究会と特集論文研究会の共同開催となりました。第 6 回研究会 3 パラレル，特集論文研究会 2 パラレルの計 5 パラレルでのプログラム構成のもと，第 6 回研究会が 15 セッション，特集論文研究会が 8 セッションの合計 23 セッションが成立し，たいへん盛況となりました。

生成 AI の目覚ましい発展により社会の構造や人間の役割は大きく変容しつつあり，そのような社会において，人はどのような情報活用能力を身に付けるべきか，また人と生成 AI がどのように役割分担・協働していくのかを改めて問い直すことが求められています。また，情報活用能力の重要性はすでに広く共有されていますが，生成 AI と共存する時代に必要となる具体的な資質・能力の中身や，小学校・中学校・高等学校・高等教育へと連なる情報教育・情報科教育の接続の在り方については，なお検討すべき課題が残されています。そこで 2025 年度は「生成 AI と情報活用能力の育成」をテーマとしました。このテーマに関する研究発表が数多く報告されましたが，それに加えて，スキル支援，先進的学習支援，語学学習などさまざまな研究発表がありました。発表件数は 44 件と多くの方にご参加いただきました。各セッションでは聴講されている方からの質問も多くあり，闊達な議論が行われました。特集論文研究会テーマ「これからの学習を生み出す学習デザイン・支援システム・分析」では，AI との対話による学び，AI による学習分析と学習支援など，AI を活用したご発表とともに，ICT を活用して暗黙知，非認知スキル，メタ認知スキルなど，従来の講義形式では伝達が難しかったことを可能とするための提案に関するご発表がありました。閲読希望 9 件を含む，計 18 件の大変興味深いご発表が行われました。

最後に，発表者や参加者の皆様のご協力により円滑に研究会を進行することができました。この場を借りて担当委員より御礼申し上げます。ありがとうございました。

■ 特集論文研究会における閲読について

本特集論文研究会は、学会誌特集との連動企画となっております。特集論文については、ニューズレターの別記事をご参照ください（論文投稿の締切は【2026年6月1日（月）】です）。

本研究会では、希望者に対して、特集論文の投稿に向けた閲読コメントをお返ししています。より良い閲読コメントをお渡しできるように、当日の発表内容を録画させていただき、これも閲読の参考にさせていただいております。また、発表者には研究報告原稿の他に、発表する研究について「リサーチクエスチョン」「新規性」「有用性」「信頼性」の各主張点（論文投稿におけるカバーレターの内容に相当）をまとめて事前に提出をいただき、それらの点も閲読時に参考にさせていただいております。発表者のみなさまは、ぜひ閲読コメントを参考に、6月1日締切の特集論文へのご投稿をいただければ幸いです。

《閲読の流れについて》

1) 閲読コメント担当者は、1編に対して2名

① 閲読者に事前に論文を送付

② 閲読者は当日の発表あるいは録画映像を踏まえて閲読コメントを作成

2) 閲読コメントは2026年4月中旬に著者へ送付予定

■ 発表タイトル一覧：

<第6回研究会テーマ：生成AIと情報活用能力の育成>

- 情報関連科目の演習問題における認知プロセスと正答率の関連性分析
- ゲーム設計を題材とした企画学習におけるAI・MDAフレームワークを用いた支援ツールの提案
- 中学生サッカー選手の熟達化に関する研究
- 創造的活動における子ども達の主観評価と成果物の創造性評価の関係
- 課題タイプおよびモデル・モード差に基づく生成AIを用いた作文課題評価の比較
- 学部留学生を対象とした日本語文章表現授業における生成AIの活用と受講者の意識の変化
- 問題解決過程に関する批判的思考力育成のためのレポート作成支援AIの改良と試行評価
- 中学校理科における生成AIのAPIを用いた探究学習支援AIツールの開発と試行
- 日本語教師の専門知とデジタル集合知を統合した教材生成支援システムの構築：初級日本語における教育的制約のモデル化と評価
- 高校情報科における生成AIを活用した授業実践の質的分析
- 沖縄県の教員及び小・中・高校生生成AI利用実態に関する調査研究
- 生成AIを活用した批判的思考力育成のための擬似ディベートシステムの開発
- PICRATフレームワークに基づくファイナンス教育における生成AI活用事例の調査
- 段階的な卒業論文セルフチェックを可能とする推敲支援AIの利用実態
- プログラミング学習における行き詰まり検出に基づいて声掛けと適応的助言を行うシステムの開発・評価

<特集論文研究会テーマ：これからの学習を生み出す学習デザイン・支援システム・分析>

- 動画学習における認知段階を考慮したLLMによる自動応答システム
- 質問力評価機能を有する探究学習支援ローカルLLMシステムの開発と評価

- ソクラテス式対話学習のための包括的プロンプトフレームワーク：NotebookLM と Gemini の比較評価
- 生成 AI を用いた学習者の学習スタイルと学びの文脈に基づく e ラーニング学習支援システムの評価
- クラウド環境下の他者参照はいかにして記述の深化を促すか ―学習履歴データに基づく他者参照の類型化と振り返りの関連性検討―
- 統計不安の授業前後変化と座席-教卓間の推定距離の関連
- 思考経験に基づく経験知共有プラットフォームの開発
- 探究学習における探索仮説の構造化支援システム
- セマンティクスウェアな教材作成活動を題材としたメタ学習支援システムの開発
- FPS ゲームを対象とした瞬間判断能力の育成を指向した段階的学習手法の提案とその評価
- 定量化行動からのメタ認知スキル評価指標の探索
- 左官映像から要改善動作を判定する動作振り返り支援システムの開発
- 学生の資質・能力の育成傾向を AI を用いて分析・可視化するボトムアップ型教育の質保証支援システムの評価
- 働く成人における学習行動の関係構造分析 ― 学習の方法・スタイル・機会の二段階性に着目して ―
- Multimodal Learning Analytics のための Instructional Safety を担保する Learning Record Store の設計
- ブレンド型学習におけるアカデミックパフォーマンスの相対的变化の分析
- データサイエンス学習の行動統制感が意欲に与える影響の実証分析―外国語学部生の初年次教育の事例から―
- センサーを活用した実空間フィジカル CMC (Computer-Mediated Communication) 教材の設計モデルとシステム開発

<一般>

- 分散表現に基づく関連類義語の自動抽出機能を備えた例文の意味的分類支援システム
- 学習支援センター利用者への継続的インタビューによる支援効果の明確化の試み
- 自己 PR 作成時に、ワークシート法と、専用生成 AI との壁打ち法による効果の比較分析
- 教員養成教育のための異なる属性の教材による学習効果の比較分析
- GCN と Few-Shot Learning を用いた少数サンプル職業推薦モデルのシミュレーションによる性能評価
- 保育系学生がスマホ依存の育児を考えるオンデマンド授業の実践
- クラス構造変形問題の自動生成によるオブジェクト指向設計能力獲得支援システム
- 中学校プログラミング教育支援 ―ひな型とフローチャート作成を用いた授業の実践―
- 繰り返し受験可能なオンラインテストの実施方法変更による学習効果と学習行動への影響
- 教師ロボットの振る舞いが受講の印象に与える影響の調査
- 授業対話シミュレーションにおける教員・学生特性の再現性と教育的特徴の分析
- 作問活動を通じた類推的問題解決のための抽象化能力育成支援システムの開発

- 生成 AI による英語学習支援の検討—難易度別に生成された英文の評価についての基礎調査
- 説明可能な AI 技術を用いた第二言語発音練習支援のための発音比較機能の開発
- VR 型 STEAM 教材 PICAPICA-SHARE における学習者の創造活動を支援する AI エージェントの開発
- ロボットにおける複合的感情表現の設計と評価
- 英語発音学習システムにおける認知的段階支援機能の予備的評価
- シミュレータを用いた自動車危険運転の誇張再現によるリフレクション支援
- 卓球競技における記録・振り返り・戦術立案を支援するノートシステム「Tac-Tic」の開発
- 筋活動可視化による発声学習支援システムの開発・評価
- プログラムを読む学習における誤りの可視化を用いた振り返り学習支援システムの開発・評価
- 学習者の心的状態に合わせた適応的な補助問題提示機能の検討のための予備的分析
- アドバイス生成プロンプトの類似距離を利用した小学校の授業におけるアドバイス評価
- 聴講者ロボットの理解状態可視化による修正行動振り返り支援システム
- 教員養成系大学生のためのセキュリティインシデントシミュレーターの開発とその評価
- 将棋の対局における対戦相手ロボットの實力表出制御によるリフレクションの促進
- 保育士・幼稚園教諭養成課程における動画を活用したメタ認知を改善するための授業設計
- 児童生徒における e メディア使用とセルフコントロール・対人関係との関連
- セルフコントロール尺度を用いた児童生徒の e メディア使用時間に関する考察



2025 年度学生研究発表会開催報告・優秀賞のお知らせ

担当者： 人材育成委員会

2025 年度 JSiSE 学生研究発表会は、2026 年 2 月後半から 3 月中旬にかけて、北海道、北信越、関東、東海、関西、中国、四国、九州・沖縄の地区で、各支部主催により開催されました。発表総件数は 112 件、参加者数は 252 名と、各会場とも盛況な研究発表会となりました。各地区の優秀な発表については、優秀賞として選定されています。

各地区の学生研究発表会の参加者数および発表者数、ならびに受賞リストは以下の通りです。

学生研究発表会開催状況

地区	地区担当者	開催日	発表件数	参加者数
北海道	山本 裕一（北海道大学）	2026 年 2 月 27 日（金）	10（口頭のみ）	29
北信越	本吉 達郎（富山県立大学）	2026 年 3 月 2 日（月）	6（口頭のみ）	17
関東	辻 靖彦（放送大学）	2026 年 2 月 27 日（金）	9（口頭のみ）	20
東海	岡本 英通 （大垣女子短期大学）	2026 年 2 月 21 日（土）	16（口頭のみ）	36
関西	越智 洋司（近畿大学）	2026 年 3 月 5 日（木）	29（口頭 10, ポスター19）	45
中国	岩井 健吾（広島工業大学）	2026 年 2 月 23 日（月）	17（口頭のみ）	33
四国	裏 和宏（愛媛大学）	2026 年 3 月 11 日（水）	16（口頭のみ）	43
九州・ 沖縄	久保田 真一郎（熊本大学） 小渡 悟（沖縄国際大学）	2026 年 2 月 23 日（月）	9（口頭のみ）	29

優秀賞（優秀発表賞・優秀ポスター発表賞）

地区	受賞者氏名	受賞者所属	タイトル
北海道	川村 芽生	公立千歳科学技術大学	高等学校にむけた Learning Tools Interoperability ベースのクラウド基盤型授業支援環境の構築と教員業務変容の可能性
	山本 鳳雅	公立千歳科学技術大学	概念マップとルーブリックを統合した対話型学習支援モデルに関する研究
北信越	山口 果凜	長野工業高等専門学校	声楽習熟者の歌唱時におけるブレス直前の腹部運動に着目した動作解析
	今井 咲成	富山県立大学	交通事故防止啓発活動への活用を目指した 人身事故リスクの分析手法の検討

関東	福田 晃登	早稲田大学	抽象画を対象にした画像特徴量と感性語の関係に関するファジィ推論機構の構築と評価
	北風 陵汰	電気通信大学	パフォーマンス評価におけるハロー効果の影響を考慮した項目反応モデル
東海	中野 玄	静岡大学	畳み込みニューラルネットワークにおける層構造の設計とコーディングを対象とする知的教育支援システムの開発と評価
	反町 祐啓	静岡大学	視線情報を活用した迷い推定のための英単語並べ替え問題 Web アプリケーションの開発
	高塚 朝陽	名古屋大学	数式自動採点システム STACK を用いた数学学習支援 iOS アプリケーションの開発
	鷹栖 巧実	信州大学	VR 型 STEAM 教材における創造活動を支援する役割分離型仮想エージェントの設計・実装
関西	岡本 佳大	信州大学	歩行計測を目的とした簡易 IMU を複数台用いた計測システムにおける 時間同期精度評価の基礎的研究
	長谷川 豪	近畿大学	学習モード選択と習得度推定に基づく ストリートファイター6 のスキル学習支援システムの開発
	谷 悠輔	和歌山大学	拡散モデルを用いた構造保持型スタイル変換によるピアノ演奏表現の個別化 (*)
	藤原 未羽	大阪公立大学	我慢行動の価値転換を目的とした減量支援システム(*)
	大谷 直輝	大阪工業大学	構造化情報を活用したアイデア創出支援システム (*)
	岩永 和樹	大阪工業大学	NVIDIA Omniverse を活用した空間認識能力向上支援アプリケーションの開発 (*)
中国	木村 達也	広島大学	再構成型概念マッピングにおける共有理解マップの協調的作成支援を指向した自己・他者再構成の導入と実験的評価
	矢上 果林	広島工業大学	カード操作によるプログラミング学習支援システムにおける疑似ログ生成を用いた学習者行動の自動分類
	植田 昭夫	広島大学	誤謬変換を用いた論証再構成法の実験的評価
	寺尾 透哉	広島大学	生成 AI を用いた英語教材の可読性向上による多読支援
四国	簗原 海斗	香川大学	MICE 誘致における主催者の要求整理に向けた実行性検証システムの開発

	濱松 未波	熊本県立大学	小学校高学年を対象とした情報モラル育成支援アプリケーションの開発とその評価
	小山 智希	鳴門教育大学	高校生のプログラム理解に関する基礎的考察 ―情報Ⅰの類似問題（数値・文字列）と日常概念，共通テスト等の問題複雑度を踏まえて―
	喜多 俊介	徳島大学	バスケットボールの速攻・遅攻判断を支援する学習環境
九州・ 沖縄	中口 滉紀	九州工業大学	英語パラグラフライティングのためのアイデア整理支援 ～診断機能の拡張～
	我那覇 瑞貴	沖縄国際大学	Discord 連携による教室利用状況通知システムの開発―Web スクレイピングと自動配信を用いた実装―

*は優秀ポスター発表賞である.



研究会報告年間購読の申し込みについて

2016年度から、印刷媒体での研究会報告は廃止し、オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように、研究報告を電子化しています。保管などの手間もなく、大変便利に活用できるようになっております。

是非、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得になっております。

- ・年間購読:4,000円（定例研究会4回，特別研究会1回，計5回分を含む）
- ・当日販売:1冊1,000円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いします。以下の手順でお申し込みください。すでに年間購読をいただいている方は手続き不要です。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局（secretariat@jsise.org）まで年間購読申込をしてください。

=====

※研究報告年間購読希望

会員番号（お分かりであれば）：

お名前：

所属：

連絡先 e メールアドレス：

=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

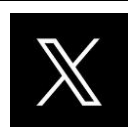
※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。

広報からのお知らせ



ニュース・レター発行回数変更のお知らせ

2024年度より、ニュース・レターの発行は年4回となります。研究会の開催時期と異なるため、今後は、年間スケジュールおよび開催報告のみの掲載となります。開催案内と講演募集につきましては、学会Webサイトでご確認ください。



X (Twitter) アカウントの紹介

2016年8月下旬より、全国大会開催に合わせて学会の公式 X (Twitter) アカウントを開設しました。本アカウントは原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております。本学会へのご質問・お問い合わせは、学会事務局 (secretariat@jsise.org) へお願いします。

<https://twitter.com/JsisePr>



Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会の公式 Facebook ページを運用しています。本ページでは、論文・発表募集や本学会に関連するイベントの情報などをお届けしています。ぜひ、ご覧下さい。

Facebook ユーザの方は、ぜひ、「いいね」をお願いいたします。

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

X (Twitter)、Facebook への情報掲載の依頼などは学会事務局 (secretariat@jsise.org) までお問い合わせください。



他団体 協賛・後援イベントのお知らせ

- 後援：「九州大学データ駆動イノベーション推進本部スマートラーニングデザイン研究ユニット・福岡市教育委員会合同シンポジウム」
日時：2026年6月26日（金） 13:00～16:00
会場：九州大学 西新プラザ 大会議室（ハイブリッド形式）
- 協賛：「2026年度工学教育研究講演会」
日時：2026年9月2日（水）～4日（金）
会場：岐阜大学
- 協賛：「第28回日本感性工学会大会」
日時：2026年9月16日（水）～18日（金）
会場：タワーホール船堀



国際会議案内

- AIED 2026（2026年6月27日-7月3日，韓国）
<https://www.aied-conference.org/2026>
- ICoME 2026（2026年8月6日-8月8日，ハワイ）
<https://2026.icome.education/>
- ICCE2026（2026年11月30日-12月4日，ニュージーランド）
<https://icce2026.csse.canterbury.ac.nz/>



会費改定のお知らせ

日頃より、会員のみなさまにおかれましては、学会の事業活動の運営や維持にご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。

現状の教育システム情報学会の会費は、1995年に「CAI学会」から名称の変更が行われたときより、30年間据え置きとなっております。しかしながら、全国的なコスト高の影響が学会会計にも及んでおり、事業を維持するための業務フローの改善やDXなどでの費用の圧縮に限界がきております。また、本学会の会員数についても「これまでの学会事業の維持」だけでは緩やかに減少していくことが見込まれ、5年後、10年後を見据えますと、学会の規模が縮小してしまう可能性が高くなっております。

このような背景のもと、「学会事業における新規の取り組みや事業間の連携などを行い、魅力的な学会事業を展開・発信していくことで、入会される方々を増やしていくこと」「今後も続くであろう価格・コスト高の傾向に対しても、学会事業を滞りなく進めていける財務の基盤を固めること」を目的として、2026年度より下記のとおり会費の改定（正会員の会費のみ1500円値上げ）を行います。

改定前		改定後	
会員種別	会費	会員種別	会費
正会員	7,000円(不課税)	正会員	8,500円 (不課税)
学生会員	4,000円(不課税)	学生会員	4,000円(不課税)
賛助会員	50,000円(1口以上, 不課税)	賛助会員	50,000円(1口以上, 不課税)
入会金は正会員初年度のみ1,000円(不課税) 研究報告の年間購読料は4,000円(課税)		入会金は正会員初年度のみ1,000円(不課税) 研究報告の年間購読料は4,000円(課税)	

この価格改定につきましては11月15日(土)に開催されました臨時社員総会にてご審議をいただき、ご了承を得ております。

2026年度の会費納入において上記の価格改定の通り、会費請求のご案内をいたします。会員の皆様におかれましては、誠に恐縮に存じますが、事情ご賢察賜りまして、ご理解いただきますよう謹んでお願い申し上げます。



会費納入のお願い

学会の運営は皆様の年会費で支えられております。今年度の年会費が未納の方はご入金をお願いいたします。なお、10月以降に年会費が未納の場合、学会誌の送付が一時休止されます。入金確認後、入金日の翌月末までに今年度内の未送付分も合わせて学会誌の送付を再開いたします。3月末までに入金を確認できない場合は、未送付分の学会誌はお送りできなくなりますので、お早めにお手続きをお願いいたします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページのURLは、会員情報管理システムの業務委託をしている株式会社国際文献社のものです。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

■振込先

◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇一九 店（ゼロイチキョウ店） 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

◆三菱UFJ銀行（金融機関コード：0005）

店名：上新庄支店（カミシンジョウ支店）

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）

店名：茨木 支店（イバラキ支店）

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。
※所属が変わった方は、マイページにログインした際に、連絡先などを変更するようお願いいたします。

【過年度年会費を支払われていない方へ】

マイページでは、全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます。先に本年度以前の分のお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、会員資格停止の手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
Tel:03-6824-9376 Fax:03-5227-8631 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです。

■会員専用ページでは、以下のことができます。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡をお願い致します。

ログインには、ID とパスワードが必要です。

パスワードをお忘れになった場合は、上記 Web サイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしく願い申し上げます。



入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、
入会金を無料にさせて頂くというキャンペーンを行っております。
そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。



新入会員のご紹介

下記の6名の皆様が新しく入会されました。(2025年12月25日～2026年3月25日)

本学会での益々のご活躍を期待しております!

会員名	会員種別	会員名	会員種別
ZHENG JIE	学生会員	山坂 菜々	正会員
今井 弘	正会員	井上 宗一郎	学生会員
内野 航希	学生会員	中村 友基	正会員